

# 週刊 タバコの正体

皆さん、下のイラストを見てどう思いますか。仕事に席を離れて喫煙所でタバコを吸っているシーンなのですが、一方で事務室内では仕事を続けている人が見えますよね。ニコチン依存症の喫煙者は毎日何回か、勤務中に職場を離れタバコ休憩をとる事が慣例となっている事業所は多いと思われま



マイナビニュース「ワーク&ライフ」サイトから

時給2000円

- ・分給33円
- ・喫煙10分  
=1回330円



KOKUYO「仕事の効率化」サイトから

すが、タバコを吸わない従業員から見ると、喫煙者のタバコ休憩は不公平だと思えてしまいます。1回の喫煙時間を10分だとして、毎日5回タバコ休憩をとったとすると50分も多く休憩している事になりますからね。

さらに、その下のイラストを見てください。例えば時給2000円の人が50分間のタバコ休憩をとったとすると、毎日1650円分が仕事をしないで消えている計算になります。

見方を変えれば、ニコチン依存症の人はタバコが必要ない人に比べ、毎日の実質作業時間が短く、作業時間あたりの時間給も割高になっていると言えます。

経営者の立場にたてば、この現象は好ましくありません。だから「喫煙者は採用しません」とか、「勤務時間内禁煙」を実施している企業は年々増えています。この傾向は、これからも続くでしょう。

喫煙者にとっても、忙しい作業のさなかにタバコ休憩に時間が奪われるのはツライでしょうから、タバコを吸い始めないようすべきですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久